

オペラの序曲には、劇中のメロディを繋げたものと、そうでないものとありますが、初めの2曲は後者、ヴェルディは前者の構成になります。

## モーツァルト / 歌劇「フィガロの結婚」序曲

初めの2曲はボーマルシェ作の戯曲フィガロ三部作を原作に作られたオペラの序曲です。

フィガロ三部作の第2部。従者フィガロの協力でロッジーナを妻にした伯爵が次に狙ったのは、こともあろうかフィガロの婚約者スザンヌです。それを知った伯爵夫人とスザンナは、小姓ケルビーノを使ったり、夫人とスザンナが入れ替わったりで伯爵を懲らしめる計画を立てます。フィガロには内緒です。途中バレそうになり、ケルビーノは兵隊として戦地に送られる罰を受けますが、計画は成功し、伯爵は膝をついて許しを乞います。従者の助けを乞う伯爵夫妻の情けなさや、君主制に対する抗議のメッセージが明確で、モーツァルトの勇気を感じます。

曲の出だしをぜひ集中してお聞きください。弱音で弦楽器とファゴットが奏でる序奏は私たちをこのオペラの世界に引き込んでいきます。

## ロッシーニ / 歌劇「セビリアの理髪師」序曲

フィガロ三部作はここから始まります。身寄りのないロッジーナに一目惚れした伯爵は理髪師フィガロの力を借りて、彼女の財産を狙う医師バルトロと音楽教師バジリオから救い、結婚します。当時身分の高い人が使用人の協力を得ることは、恥ずべきことでした。

序曲は他のオペラから流用されたものです。1つのフレーズが繰り返され小さな音から徐々に大きくなって盛り上がる「ロッシーニクレシェンド」をお楽しみください。

第3部の「罪ある母」は「フィガロの結婚」から20年後の話です。伯爵とフィガロの両夫婦はフランス革命中のパリに移住します。伯爵夫妻には二男と養女がありますが、長男は死に、次男は伯爵夫人とすでに戦死している元小姓ケルビーノとの間に生まれた不義の子です。養女も伯爵が彼の友人の妻に生ませた密通の娘で、財産を残すために養女にしたのです。そしてこともあろうかこの2人が恋愛関係になります。

## ヴェルディ / 歌劇「運命の力」序曲

カラトラバ侯爵の娘レオノーラは、インカ人の血を引くドン・アルバロに恋しますが、父から許されません。侯爵はアルバロの銃の暴発で死亡してしまいます。伯爵の2人の息子は復讐のためアルバロの命を狙いますが、共に返り討ちに遭い、その時レオノーラも命を落としてしまいます。アルバロはその運命を呪い崖から身を投げます。最後には主要登場人物が全員死んでしまうオペラです。

序曲はこの悲劇を暗示する3つの続く音を吹く金管楽器から始まります。オペラのメロディをもとにできており、悲しみ、祈り、葛藤、孤独、天上の至福、怒涛。このオペラの縮図が詰め込まれています。

## レスピーギ / 交響詩「ローマの祭」

今回の選曲には耳による時間旅行を私は感じています。作曲者

それぞれの活躍した時代が時系列に並び、オーケストラ編成やサウンドの変化を味わうことができますし、最後の「ローマの祭り」はさらに古代、中世、近世、そして現代とローマで行われた祭りを描いたもので、途切れることなく演奏されます。

## I チルチェンセス

古代ローマ、皇帝ネロは市民の政治への不満を逸らすために「パンと見世物」と呼ばれる食料や娯楽を提供する政策を行いました。チルチェンセスとは見世物のことです。映画「グラディエーター」をご覧になった方もいらっしゃると思いますが、ここにいるのは勇猛な戦士ではなく、腹を空かせた猛獣と皇帝崇拝を拒否したことで迫害されたキリスト教徒です。

キリスト教徒は、自ら死ぬことを望み殉教します。キリスト教に敵意を抱いている群衆の目の前で意図的に死ぬことを重視したからです。市民の喚声、ファンファーレ、猛獣たちの唸り声、キリスト教の聖歌。この残酷な祭りの一部始終を大管弦楽で描いています。

キリスト教は313年コンスタンティヌス帝のミラノ勅令によって公認され、ローマ帝国による迫害は終わります。392年にはテオドシウス帝によって国教化されます。

## II 五十年祭

キリスト教にはある期間ローマを訪れ、決められた条件で祈る信徒たちに、教皇が「聖年の大赦」と呼ばれる特別免償を与える一年があります。教皇ボニファティウス8世の命で1300年に行われ、この時100年ごとと決めましたが、14世紀の半ば教皇クレメンス6世によって、50年ごととされます。これが五十年祭です。巡礼者たちが疲れきった足取りでモンテ・マリオの丘を登り、ローマを讃え、讃歌を歌い、教会の鐘がなります。

聖年はのちに33年ごととなり、1470年教皇パウロ2世は25年と決めました。すべての世代が大きな免償を獲得できるようにとの配慮で、今日もお実行されています。

## III 十月祭

ローマ郊外、南東30kmに位置するなだらかな丘陵地帯カステッリ・ロマーニは、ローマ市民の身近な日帰りお出かけスポットです。10月は栗や葡萄の収穫期で、「十月祭」は秋の葡萄の収穫祭です。神聖ローマ帝国のカール5世が、この地でワイン造りを命じ、軽やかに爽やかに仕上げた赤ワインは「ローマ法皇にも愛された伝統の赤ワイン」と言われています。

城が葡萄で覆われ、鈴をつけて走る馬、狩りの合図、鐘の音、愛の歌、夕暮れ、セレナーデのマンダリンをお楽しみください。

## IV 主顕祭

クリスマスの後に東方の三賢人がキリストを訪ねてやってきたことを祝う日。カトリック信者にとってはクリスマス以上に楽しみな、朝から晩までどんちゃん騒ぎできるお祭りです。魔女ベファーナが暖炉に吊るしてある靴下に良い子にはキャンディやおもちゃを、悪い子には木炭を入れるという言い伝えがあります。

喧騒、田舎の音楽、舞曲、見せ物小屋、手回しオルガン、物売り、酔っ払いの歌声。耳は陽気なイタリア人になってお祭りに参加してください。